平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	道路管理事業	担当課	建設課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間 年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別 法定事務
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働
予算科目コード	01-080101-02 単独	根拠法令・条例等	道路法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
道路の適切な維持管理を図るため、道路法により道路台帳の調製、保管及び閲覧に供することが定められているため。	市内全域において、新設改良、拡幅改良、維持補修等を実施した路線の構造、区域、道路施設等、道路管理に必要な事項の道路台帳補正のほか、測量業務等を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
道路台帳及び道路境界確定図書ファイリングシステムの更新により、最新の市道の現況を的確に捉え、維持管理を適切に行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
道路境界確定図書をファイリングすることにより、境界資料の調査や問い合わせ対応が速やかになっているが、過年度分の膨大な資料を予算の範囲内で順次更新しているため、最新の状態にするまでに年数を要している。真に必要な資料のファイリングをしていく。	境界資料の整理 通年 次年度の取り組み ～12月 境界立会い資料のデータ化の選別 1～2月 ファイリングシステムデータ更新
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
ファイリングすべき資料を整理し、重複や余分な資料を省きファイリング量を削減することで、多年度分の更新が可能となるようにする	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
道路法に基づき、道路台帳の更新・保管を行い、市道を適切に管理する。	路線の認定・廃止及び道路改良工事による道路台帳の調製を行った。道路境界確定図書について、必要な書類を精査しファイリングを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
道路台帳整備率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	道路整備状況を的確に更新し、最新の道路整備状況を把握し、適切な道路管理をした。今後も継続的に道路台帳を更新していく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	法に基づき道路台帳を更新して、市道の維持管理を適切に行う。道路境界確定図書のファイリングについて、立会後の成果品をシステムに反映し、常に最新の状態にする。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	14,503	15,926	13,805	14,407	14,407
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	173	0	0
	一般財源	14,503	15,926	13,632	14,407	14,407
正職員人工数（時間数）		0.00	2,822.00	2,113.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	11,570	8,663	0	0
トータルコスト		14,503	27,496	22,468	14,407	14,407

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	道路補修事業	担当課	建設課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間 年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別 法定事務
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働
予算科目コード	01-080201-01 単独	根拠法令・条例等	道路法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民が道路を安全に通行できるよう、常時良好な状態に保持するため。	道路清掃・路肩除草及び道路排水施設の清掃等を行う。また、道路状況が悪化した箇所を補修する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
一般交通に支障を及ぼさないように道路の維持、修繕を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
一般交通に支障を及ぼさないように、早期に道路補修箇所等を見出す必要がある。	災害対策協議会の協力によりパトロールを月一回実施 また、職員によるパトロールや市民投稿型アプリの投稿レポートの早期対応（随時）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
職員、災害対策協議会と連携して修繕箇所の早期発見に努める。 また、今年度から運用開始した市民支援総合アプリの投稿レポートの活用を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
道路を適切に維持管理するため、効率的に道路補修を実施し、通行の安全を確保する。	ふれあい道路や市道109号線等の幹線道路を計画的に舗装修繕した。また道路除草や側溝清掃による保全や災害対策協議会によるパトロール及び職員によるパトロール並びに市民投稿型アプリの投稿レポート等より発見した道路破損箇所を迅速に修繕・改善した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
補修工事実施件数（件）	60.00	47.00	50.00	50.00	50.00
道路の不具合による事故件数（件）	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	道路破損箇所の早期補修により、安全・安心な道路環境を維持した。今後も、パトロール等により、危険箇所の早期対応をし、一般通行に支障がでないようにしていく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	効率的な道路補修により、安全・安心な道路環境を維持する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	154,664	147,312	139,170	139,140	139,140
	国・県支出金	12,540	4,510	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	34,803	35,129	38,700	35,268	35,268
	一般財源	107,321	107,673	100,470	103,872	103,872
正職員人工数（時間数）		0.00	1,066.00	2,596.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	4,371	10,644	0	0
トータルコスト		154,664	151,683	149,814	139,140	139,140

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	担当課	建設課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働
予算科目コード	01-080201-02 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
橋梁の修繕を行い、橋梁の長寿命化を図るため、平成25年度に橋梁長寿命化計画を策定した。また、平成25年9月に道路法が改正され、道路施設（橋梁）の5年に一度の定期点検が義務化された。	常磐自動車道を跨ぐ橋梁を含む61橋について、5年毎の橋梁定期点検の実施により、橋梁長寿命化計画を更新し、より効率的な修繕を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
従来の対処療法的な修繕及び架替えから、予防的な修繕及び長寿命化修繕計画に基づく架替えへ政策転換を図るものであり、既設橋の延命化等、効率的な修繕を行うことにより予算の平準化、維持管理のコスト削減を図りながら安全で快適な道路網を維持する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
昨年度の北守谷橋の補修工事については、高速道路の交通規制等の問題からネクスコへの工事委託により実施した。 高速道路を跨ぐ橋梁はこのほかに11橋あることから、工事の施工方法や施工時期等についての検討が必要である。ネクスコへの委託は他の自治体からも依頼があるため、今後数年先までの修繕計画を精査し、実施可能か検討協議が必要。	平成29年度 橋梁定期点検実施（58橋） 北守谷橋修繕工事 平成30年度 橋梁修繕計画策定（61橋） 山王歩道橋・ひがし野橋修繕工事 荻久保大橋ほか3橋実施設計 平成31年度 荻久保大橋ほか3橋修繕工事 新規修繕計画による。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度に予定している橋梁修繕計画策定において、高速道路を跨ぐ橋梁の修繕計画を特化して策定する。交通規制にかかる費用が大きいため、圧縮して実施する等、ネクスコとの事前協議を取り入れ、実施可能で効率的な計画を策定する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	橋梁長寿命化計画により、計画的な修繕を行うことにより予算の平準化、維持管理コストの削減を図る事業であり、現状の計画で実施しなければ期待する効果が得られない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
橋梁長寿命化計画により効率的、計画的に補修工事を実施する。	橋梁長寿命化計画により、北守谷橋橋面補修工事を実施するとともに、橋梁57橋の定期点検を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
修繕実施橋梁数（設計を含む累計数）（箇所）	4.00	6.00	7.00	10.00	20.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	国庫補助金を活用して実施しているが、年々内示状況も厳しくなっているが、より効率的に実施し、橋梁長寿命化計画に沿って進むよう成果の向上を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	国庫補助金を活用し、橋梁長寿命化計画に基づき、効率的、計画的に補修工事を実施していく。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	8,197	0	198,946	113,843	108,000
	国・県支出金	4,158	0	85,650	38,280	59,400
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	83,164	0	48,600
	一般財源	4,039	0	30,132	75,563	0
正職員人工数（時間数）		0.00	650.00	364.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	2,665	1,492	0	0
トータルコスト		8,197	2,665	200,438	113,843	108,000

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	守谷駅自由通路等維持管理事業	担当課	建設課	
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間	平成17年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別	法定事務
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働	
予算科目コード	01-080201-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成17年のつくばエクスプレス開業に合わせ、自由通路等の維持管理を行い、歩行者動線の確保及び利便性向上を図るため。	自由通路、公衆用トイレの清掃委託、エレベーター、エスカレーター の保守点検委託、昇降機の修繕工事を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
守谷駅の自由通路等を適切に維持管理し、利用者が安全で快適に利用することができる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
エレベーター、エスカレーター等の保守点検は、昇降機メーカーとライセンス契約している業者と契約しているが、台風による雨水の流入によりエスカレーターが停止し利用者に不便が生じた。	屋根からの雨水流入対策 定期的に地下ピットの雨水の排出 平成32年の保守点検業務の更新に伴い、受託可能業者を複数選定し、契約方法の見直しについて検討する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
雨水の侵入防止策及び地下ピットの定期的な雨水排出 保守点検事務委託の見直し（一社随契）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☒ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	定期的な地下ピット内の雨水排出業務

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
安全・安心な駅前を提供できるよう、適切な維持管理を務める。	自由通路トイレ及び通路の清掃，エスカレーター・エレベーターの保守点検及び改修工事を実施した。 また，豪雨による雨水流入により，エスカレーターが故障し，その対応と修繕を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
施設の不具合による事故発生件数（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	昇降機等の保守点検及び通路等の清掃により，施設の快適な環境を維持した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	適切な昇降機等の保守点検及び通路等の清掃により，施設の快適な環境管理に努める。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	23,001	38,530	34,107	32,414	32,414
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	23,001	38,530	34,107	32,414	32,414
正職員人工数（時間数）		0.00	184.00	51.00	51.00	51.00
正職員人件費		0	754	209	0	0
トータルコスト		23,001	39,284	34,316	32,414	32,414